

水城跡の植生 (樹木調査)

大野城市教育委員会



J R線路より西側



J R線路より東側

水城跡は、日本の古い歴史書である日本書紀に、今から約1350年前に築かれたことが記されており、国の特別史跡に指定されています。

現在も、長さ約1.2kmにわたって大きな土塁を見ることができます。また、文化遺産としてはもちろん、市街地での貴重なグリーンベルトでもあります。大野城市では、この水城跡を守り伝え、将来的な管理・活用を考えるための基礎的な資料を集める目的でさまざまな調

査を行っていますが、その一環として平成17年度に水城跡の樹木調査を実施しました。この調査によって、水城跡のどこにどのような植物が生えているかが明らかになりました。



巨大なクスノキ



根上りの状況

樹木調査の対象となったのは、水城跡の大野城市分にあたる範囲で、面積は1.2haに及びました。調査の結果、おおよそ次のようなことがわかりました。

- 1 水城跡の緑は、照葉樹と落葉樹が混在する萌芽林である。
- 2 J R線路の東西で、照葉樹と落葉樹の割合が違う。
- 3 樹木だけで58種、地被類（草など）を含めると約140種の植物が生えている。
- 4 樹木のうち本数が多いものベスト5は、ヤブツバキ、シロダモ、クロキ、スダジイ、イヌビワである。
- 5 樹木には欧米種（洋種）はほとんど見られず、中国・朝鮮半島からの渡来種もわずかである。
- 6 福岡県レッドデータブックなどによる貴重種はない。



比較的良好な樹林

また、照葉樹の大木（クスノキなど）が多く、特に水城跡土塁の法肩や斜面では、その根が土を流出させ根上り状態になっていることもわかりました。このような状態は、土塁に悪影響を与えるおそれがあるため、改善していかなければなりません。